

資料1 北区平山に飛来した7羽のコウノトリの様子 (9/28 地域住民の方が撮影)



島根県出雲市

国の特別天然記念物コウノトリを見かけた時の注意点について (お知らせ)

コウノトリは、国の特別天然記念物です。日本の野生のコウノトリは1971年に絶滅してしまいましたが、兵庫県豊岡市周辺での繁殖の取組により、全国各地にコウノトリが飛来するようになりました。近年、島根県でも出雲市での繁殖が大きな話題となり、出雲市内でも見かけられています。

コウノトリは野生動物です。エサを与えたりせずに、優しく静かに見守りましょう。観察や撮影は、コウノトリが遠ざかったり飛び立ったりしないよう150m以上離れて行ってください。

コウノトリを出雲市内で見かけたら、日時、場所、何をしていたか、何羽いたかなどの目撃情報を、出雲市文化財課（電話番号0853-21-6893）までご連絡ください。



資料2 市ホームページでの市民へのお知らせ例

兵庫県丹波篠山市

コウノトリ飛来・繁殖時の対応について

更新日：2021年03月08日

見かけた時の注意点

コウノトリは、国の特別天然記念物です。

日本の野生のコウノトリは1971年に絶滅してしまいましたが、豊岡市周辺での野生復帰の取り組みが進められており、近年、丹波篠山市内でも見られることが増えています。

コウノトリは野生動物です。エサを与えたりせずに、優しく静かに見守りましょう。観察や撮影は、コウノトリが遠ざかったり飛び立ったりしないよう150m以上離れて行ってください。



コウノトリの見分け方や対応方法については、下記のリンク先をご覧ください。

[コウノトリ飛来・繁殖時の対応パンフレット「あなたのまちでコウノトリが巣づくりをはじめたら」](#)
(兵庫県立コウノトリの郷公園HP)

コウノトリが定着・繁殖するために

コウノトリが定着するためには、人工巣塔などの繁殖場所よりもまず、エサとなる動物を十分とることができる環境をつくるのが重要です。

一般的には水田が良いエサ場となりますが、イネが繁茂する初夏になると水田の中に入ることができなくなるため、別のエサ場を探します。コウノトリが季節ごとに、かつ1年を通してエサをとることができるよう、水田や周辺水路・ため池・河川の環境配慮や生態系の再生、有機・減農薬農業の推進、耕作放棄地の活用などの地味な取り組みが近道になります。

市では、コウノトリのエサ場づくりにつながる取り組みを支援しています。詳しくは、下記のリンク先をご覧ください。

- [令和3年度 生物多様性促進活動補助金](#)
- [市内に広がり！エコアップ作戦（丹波ささやま写真新聞）](#)
- [ため池の「かいぼり」による自然再生を応援します！](#)



掘り上げ・江



休耕田ピオトープ



環境に配慮した水路

資料3 「脱炭素」で統一してすすめよう

岡山市第六次総合計画後期中期計画（2021～2025）

基本方向9
豊かな自然と潤った市民の手による持続可能なまちづくり

CO₂ ↓ 政策27
脱炭素

脱炭素社会をめざす
環境にやさしいまちづくり

現状と課題

- 温暖化による気候変動など、地球規模での環境問題は、人類の生存基盤に関わる深刻な問題となっています。平成27年に開催された「国連気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)」における「パリ協定」では、世界の平均気温上昇を抑えるため、今世紀後半には、世界全体で人間活動による温室効果ガス¹排出量を実質的にゼロにしていく方向が打ち出され、加盟国及び地域に削減目標の設定と対策の実施が義務付けられました。
- 国においては、平成28年に「地球温暖化²対策計画」を定め、令和12年度に、平成25年度比で26%の温室効果ガス排出削減に向けて着実に取り組むとともに、令和32年までに80%の削減をめざすとしています。また、令和2年10月の首相所信表明演説においては、2050年に温室効果ガス排出量実質ゼロをめざすことが表明されています。
- 岡山市では、令和2年7月に「世界首長誓約³／日本⁴」に署名し、持続可能なエネルギーの推進、国の目標以上の温室効果ガス排出量の削減、気候変動の影響への適応・レジリエント(強靱)な地域づくりに取り組むことを宣言しました。また、令和3年2月には「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ宣言」を行い、脱炭素社会⁵をめざすことや、岡山連携中枢都市圏⁶のすべての自治体と共同して取組を進めることを表明しました。
- 岡山市における温室効果ガスの総排出量の推移をみると、民生家庭部門⁷と民生業務部門⁸は、着実に減少していますが、引き続き市民、事業者と連携しながら、徹底した省エネルギーの推進、再生可能エネルギー⁹の導入、水素など次世代エネルギーの利活用を推進し、温室効果ガスの削減に一層取り組む必要があります。一方、運輸部門の排出量は増加傾向にあり、電気自動車などの次世代自動車の導入や、エコドライブの推進にも一層取り組む必要があります。また、今後は一定の気候変動の影響は避けられないものとして、その影響を回避・軽減するための気候変動に対する適応策¹⁰についての取組が必要です。
- また、コンパクトでネットワーク化されたまちづくりを進める中で、自家用車の利用抑制や、歩行者、自転車、公共交通優先の環境にやさしい交通体系への転換を進めるとともに、環境にやさしいライフスタイル・ビジネススタイルへの転換を促進することにより、温室効果ガスの削減につなげていく必要があります。

(2021年6月改訂) 岡山地球温暖化対策実行計画（～2025）

2 中期目標の達成に向けた取組

(1) 施策の体系

環境目標、基本目標の実現をめざし、岡山市における地球温暖化対策の施策を、以下のような施策体系のもとに推進します。なお、基本目標1～3の各施策は、温室効果ガス削減量達成に向けた取組（緩和策）であり、本章で説明します。基本目標4の各施策は、災害の発生や熱中症など、私たちが直接的に被る地球温暖化の影響に対する取組（適応策）であり、第8章にて説明します。

